



特集

自分らしく、いつまでも。

人口が年々減少する一方で、本市でも高齢者人口の割合は増え続けています。1人暮らしや高齢者のみの世帯も増加している現状を踏まえ、市では「第8期高齢者福祉計画」を策定し、地域で暮らす高齢者を支えていく新たな一歩を踏み出しました。

▶ 問い合わせ **本**高齢福祉課 ☎0287(62)7137

地域で支える高齢者

今では当たり前のように耳にするようになった、「人口減少」や「少子高齢化」という言葉。本市も例外ではなく、人口が緩やかな減少傾向にある一方、65歳以上の高齢者の割合は年々増加し、現在は約28パーセントになりました。

私たちは年を重ねていく中で、病気や生活・周りの環境の変化などによって、誰しもが何かしらの支援を必要とする可能性があります。そこで本市は、高齢者が住み慣れた地域で暮らし、社会参加や健康づくりを通じて生きがいを持てる仕組みとなる「地域包括ケアシステム」の推進や地域づくりなどを目指し、4月から第8期高齢者福祉計画の運用を新たに始めました。この計画の基本理念は、「高齢者が住み慣れた地域で健やかに いきいきと暮らせるまちづくり」です。

市内で暮らしている高齢者の中には、ずっと元気にいられるようにと早くから介護予防に取り組んだり、住み慣れた家で暮らし続けられるように在宅医療を選択肢として考えたりしている人もいます。皆さんは、自分が高齢者になったときにどのような生活をしているか、何をやりたいか、考えたことがありますか。



市ではどんな支援をしていくの？ ～第8期高齢者福祉計画の重点事業～



地域見守り支え合い体制の整備

公立公民館に配置している地域支え合い推進員を中心とした見守り組織づくりを促し、見守りや安否確認など地域の課題を話し合う場の設置・運営を支援します。



医療と介護の連携の推進

医療機関と介護サービス事業所など関係者の連携を推進します。また、医療と介護関係者の顔が見える関係づくりや、切れ目のない在宅医療と介護の提供体制づくりに取り組みます。



高齢者の多様な交流・活動の支援

元気な高齢者と要支援・要介護認定を受けている高齢者が一緒に、地域で生きがい・役割を持って生活できるような居場所づくりや社会参加を推進します。また、地域活動や就労を通じて、高齢者自らが社会を支える一員としての役割を見つけ、豊富な経験や知識、技能を生かした活動ができるよう支援します。



介護予防・日常生活支援総合事業の充実

要支援高齢者向けに、掃除・洗濯などの日常生活における支援(訪問型サービス)や、機能訓練・通いの場などの提供(通所型サービス)を行います。



地域づくり型介護予防事業の推進

「住民主体の介護予防のための通いの場」に、いきいき百歳体操定着のための専門職を派遣します。また、地域の協力者である介護予防サポーターを養成し、地域の介護予防の取り組みを強化します。



認知症・若年性認知症の人への支援

認知症の人とその家族が安心して暮らせるよう、総合的な支援体制や地域の見守りネットワークの充実に取り組みます。また、若年性認知症の講演会や研修などで普及啓発をしながら、若年性認知症の人が社会に参加しやすいよう、認知症カフェの開催や新規立ち上げを支援します。



自分らしい生活をいつまでも続けていくためには、心と体の健康を保つことはもちろん、万一のときに備えて、介護や福祉のサービス、医療の受け方などのさまざまな選択肢を知っておくことが大切です。

介護保険制度を見直し

国は、地域住民が求める福祉サービスの提供体制や医療・介護のデータ基盤の整備、介護人材の確保を強化するため、昨年、介護保険制度を改定しました。

大きな変更点の1つは、介護報酬の改定です。不足している介護人材を補うために介護報酬を増額し、それに伴って、介護サービスを利用したときに支払う負担額も変わりました。

本市でも、第8期高齢者福祉計画を策定し、介護保険料では、基準額に対して調整率を変更したり、段階数を細分化したりしました。詳細は、13ページを確認してください。

他にも高齢者を支えるために、上記の事業を実施します。高齢者が住み慣れた地域で、安心して自分らしく暮らせるよう、これからも取り組んでいきます。